

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-538188(P2004-538188A)

【公表日】平成16年12月24日(2004.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2004-050

【出願番号】特願2003-520582(P2003-520582)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/08 (2006.01)

B 2 9 C 65/00 (2006.01)

E 0 6 B 3/62 (2006.01)

B 2 9 L 9/00 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/08

B 2 9 C 65/00

E 0 6 B 3/62 Z

B 2 9 L 9:00

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月8日(2005.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

機能フィルムの第1処理表面を形成するために、該機能フィルムの第1表面に第1有機チタネートプライマーを適用する工程、および

グレージング予備積層物を形成するために、該機能フィルムの該第1処理表面と第1ショック散逸層を互いに接着させるように双方を接触させる工程、
を含む、グレージング予備積層物を製造する方法。

【請求項2】

機能フィルムの第1処理表面を形成するために、該機能フィルムの第1表面に第1有機チタネートプライマーを適用する工程、

該機能フィルムの該第1処理表面と第1ショック散逸層を互いに接着させるように接触させる工程、および

第1透明基材と該第1ショック散逸層を互いに結合する工程、
を含み、該第1ショック散逸層が該機能フィルムの該第1処理表面と該第1透明基材との間に
ある、グレージング積層品を製造する方法。

【請求項3】

該第1有機チタネートプライマーが、テトラ-エチルチタネート、テトラ-イソプロピルチタネート、テトラ-n-プロピルチタネート、テトラ-n-ブチルチタネート、n-ブチルチタネートポリマー、テトラ-2-エチルヘキシリチタネート、テトラ-(オクチレングリコール)チタネート、アセチルアセトナトチタン、アセト酢酸エチルチタン、テトラブタノレートチタンポリマー、またはそれらの組合せを含む、請求項1または請求項2の方法。

【請求項4】

第1表面を第1有機チタネートプライマーで処理されて第1処理表面を形成する機能フィ

ルム、および

前記第1処理表面に接着された第1ショック散逸層、
を含む、グレージング予備積層物。

【請求項5】

前記機能フィルムが、反対側の表面を第2有機チタネートプライマーで処理されて第2処理表面を形成し、そこで該グレージング予備積層物がさらに前記第2処理表面に接着された第2ショック散逸層を含む、請求項4のグレージング予備積層物。

【請求項6】

第1表面を第1有機チタネートプライマーで処理されて第1処理表面を形成する機能フィルム、および

前記第1処理表面に接着された第1ショック散逸層、および
前記第1ショック散逸層に結合された第1透明基材、
を含み、前記第1ショック散逸層が前記機能フィルムと前記第1透明基材の間にある、グレージング積層品。

【請求項7】

前記機能フィルムが、反対側の表面を第2有機チタネートプライマーで処理されて第2処理表面を形成し、そこで該グレージング積層品がさらに、

前記第2処理表面に接着された第2ショック散逸層、および
前記第2ショック散逸層に結合された第2透明基材、
を含み、前記第2ショック散逸層が前記機能フィルムと前記第2透明基材の間にある、請求項6のグレージング積層品。

【請求項8】

機能フィルムとショック散逸層の間に有機チタネートプライマーを供給する工程、および

該機能フィルムと該ショック散逸層を互いに接着する工程、
を含む方法。

【請求項9】

機能フィルムとショック散逸層の間の接着領域で前記ショック散逸層に接着された前記機能フィルムを含む物品であって、前記接着領域が反応した有機チタネートプライマーを含む、物品。